

『歴史は現在と過去の対話である』

エドワード・ハレット・カー (イギリスの歴史家 1892-1982) の言葉

下野市教育委員会 生涯学習文化課

先月に引き続きしもつけ風土記の丘資料館で、県内の小学六年生を案内して感じたことを記します。下野市の資料館として再出発した四月は、一か月で六千名以上の方々が来館してくださいました。このほか四ヶ月期には、二千名を超える県内の小学六年生が見学に来館してくださいました。特に宇都宮市域、芳賀郡、日光市、塩谷郡方面の小学校の皆さんが多く訪れてくださいました。日光市域には、世界遺産である東照宮、二荒山神社、輪王寺などの二社一寺のほか、世界最長の並木道として、また、全国で唯一、特別史跡及び特別天然記念物の二重の国の指定を受けている日光杉並木など江戸時代以降の文化財が多く所在しています。しかし、前方後円墳などの古墳やその時代の遺跡はほとんどありません。そのため、風土記の丘資料館周辺の古墳や国分寺跡、古墳から出土した埴輪などの見学に来てくれます。

社会科見学で来訪していただいた小学生に次のような質問をしました。「①歴史の勉強をして数か月ですが、歴史の勉強は楽しいですか?②歴史の勉強の何が楽しいですか?③六年生になると歴史の勉強をするのはなぜか説明できる人はいますか?」と聞いています。

①の問いには、約四割の児童が楽しいと言ってくれました。②の問いには、「知らないことや少しだけ知っていたことが良くわかったので楽

しい。」と答えてくれました。③の問いは大人に聞いても答えを出すのはかなり難しい質問のため、返事をしてくれた児童はほとんどいませんでした。

国語や英語はなぜ勉強するのでしょうか?語学は相手とコミュニケーションをとるため、意思を伝達するための道具です。また、相手や自分の国を知ることで文化や歴史を学び、相互理解することにつながります。それが言葉であり文字であるわけです。また、古典や小説などから、当時の考えや作者の感情を読み取り磨くことができます。

算数はなぜ学習するのでしょうか?「お釣りを間違えないため」も重要なことかもしれません。でも、目的はそれだけではなく、図形や数量を学ぶことも含まれています。

理科は生き物や様々な現象、化学変化、大地や天気、地球や宇宙などについて考え、また、実験で「なぜ?」を確認し、そこから学ぶことを目的とします。

では、歴史を学ぶ意味は?現在、最古の猿人はネアンデルタールではなく、七、七〇〇万年前のサヘラントロプス・チャデンシスですが、彼らは文字を記していません。エジプトや中国でも文字を使用したのはわずか三千年前のことで、日本ではほんの一五〇〇年前からになります。無文字社会の歴史、モノから学ぶのは主に考古学で、文字に記された史料は歴史学で主に勉強します。

歴史を学ぶ意味は、人間はこれまでどのように生きてきたのか。過去から現代に至る間に人類が繰り返した出来事を客観的に学ぶことで、未来を考えることになり、未来をつくっていく人々が同じこと(特に過ち)をしないためです。

これから成長し、長い人生を楽しんでいく小学六年生が、大人になっても歴史を身近に楽しんでもくれば、見学のお手伝いをしたかがあります。

【解説】

・日光杉並木は、世界最長、全長三七キロメートルの並木道として、ギネスブックに登録されています。また、日光杉並木街道（つげたりなみきさしんひ）附並木寄進碑として、二重の国の特別指定を受けています。

・ヘラントロプス・チャデンシスは、アフリカのチャド北部で発見された猿人です。

現地語でトゥーマイ(生命の希望)の愛称で呼ばれています。



下野市で出土した最古の土器(約11,000年前)